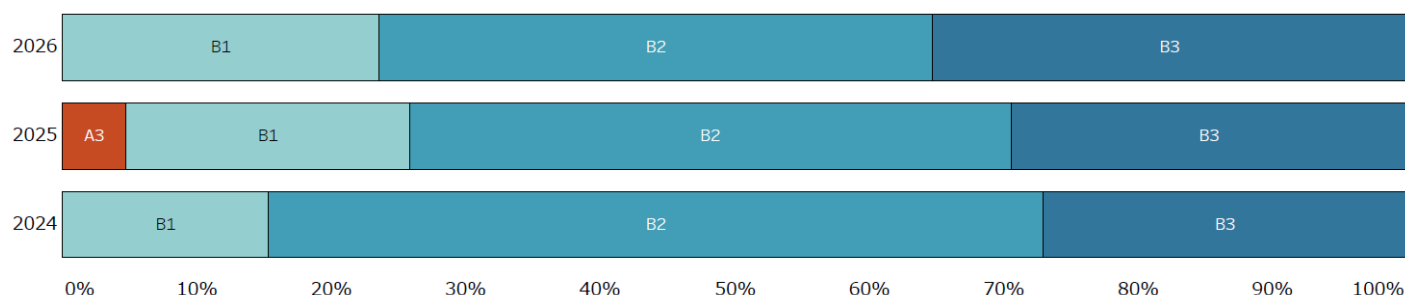


2026 年 開成 算数

過去 3 年の思考コード別出題割合は次のようになります（A は基礎的な知識・技術、B は論理的な思考力が問われる問題。数字が大きいほど難度も高い）。例年通り、高度な論理的思考力が求められる B2、B3 の問題が大部分を占めます。全体的な難度は昨年とほぼ変わらない印象を受けました。「情報を正確に読み取る力」「情報を置き換えて視覚化する力」「場合分けして確実に調べる力」が求められる試験だったと思います。



大問 1(1)は図形上の点移動の問題でした。(1)はグラフの作図です。(1)で描いたグラフは(2)、(3)で活用するため、正確なグラフを描くことに努めたいです。点 P、点 Q が辺上を折り返す地点（A、D と B、C）に注目して調べると、15 秒を境に対称な形となることがわかります。(2)a は三角形 EPQ の面積を点 E で直線を書いて内部で 2 つの三角形に分けて考えます。このとき、三角形の面積が 300cm^2 、高さが 30cm となるので、底辺は 20cm となります。つまり、(1)で描いたグラフの 20cm となる部分に注目します。(2)b は 30 秒～60 秒後のグラフに注目します。ちょうど(1)のグラフを逆さまにした形となります。30 秒後に点 P、点 Q が元の位置に戻ってきて、進む向きが最初と反対になる点がポイントです。(3)は 0～60 秒後までのグラフに、点 S の動きを重ねて考えます。大問 1 はすべて取っておきたいところです。

大問 2 は分子・分母の組み合わせを考える問題でした。使える数が 1～9 の 9 個となる点に注意します。(1)は「最も大きい数」「823 と等しくなる」に注目すると、分子は最大の 9876、分母は最小の 12 と決まります。(2)a は、(1)を利用します。「和が最大」となるので、分母が 12、約分した数が 823 となる場合に注目して、822、821、820、…と調べてみます。すると、分子が $822 \times 12 = 9864$ のとき、残りの分数は分母 3、分子 75 とアッサリ見つかります。(2)b は、「17 より小さい数」となりますが、整数になるとは限らないため、かなり手間がかかります。見送ってよいと思います。

大問 3 は立体の切断でした。立方体や積み木の切断に取り組んだことのある受験生は大多数ですが、この問題のような色付きの立体を切断する問題は初見だった受験生がほとんどだと思います。立体切断のセオリー通り、段に分けて切り口を調べていくのではないのでしょうか。大問 3 は差が付いたと思います。大問 4 は図形を場合分けして調べる問題でした。問題の流れに乗って調べていくことになります。(3)を見送り、(1)、(2)に注力して、全ての場合を確実に調べ切るとよいかなと思います。

大問 3 で手が出なかったとしても、大問 1、大問 2、大問 4 で得点できていればよいと思います。あくまでも予想ですが、大問 1、大問 2(1)(2)a、大問 4(1)(2)abc が取れていれば、およそ 6 割程度には達することができると思われます。